

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)けいはんな野菜工場	階数	地上2F
建設地	京都府木津川市木津川台9丁目5-5	構造	S造
用途地域	準工業、防火未指定	平均居住人員	45人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年3月30日
敷地面積	11,550 m <sup>2</sup>	作成者	(株)練企画設計 安藤
建築面積	3,938 m <sup>2</sup>	確認日	2017年3月31日
延床面積	5,389 m <sup>2</sup>	確認者	(株)練企画設計 土屋



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温室効果影響チャート)

標準計算

① 参照値	100%
② 建築物の取組み	92%
③ 上記②以外の	92%
④ 上記+	92%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 2.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

### 3 設計上の配慮事項

総合

東側に住宅ゾーンをかかえ、切妻金属屋根を外壁を立ち上げて隠し、工場らしさの低減と光害防止を図った。東側・西側道路に面し、隣地へと連続性を考慮に入れ、既存キョウテクトウを剪定の上、残している。東側の住宅ゾーンに配慮し、駐車ヘッドライトの漏れを防ぐため、屋根を設置している。

その他

生産ゾーンは遮温管理及びエネルギーのロスを考慮に入れ、外壁ALCに加え、内側に断熱パネルを設置し、十分な断熱をしています。水耕栽培による野菜工場において、養液はリサイクルさせて使用することを考えている。

#### Q1 室内環境

使用材料(内装仕上材・接着剤・塗料(塗材含む))はF☆☆☆☆若しくは、規制対象外材を用いるものとする事で、有害物質の少ない室内環境になるように考慮した。

#### Q2 サービス性能

建屋の東側を荷卸し・荷積みスペース及び訪問客の駐車スペース、西側をスタッフの駐車スペース・設備メンテナンススペースとし、ゾーニングによる明快な動線分離を行っている。

#### Q3 室外環境(敷地内)

東側住宅ゾーンに対して、圧迫感緩和のため、道路境界より建屋を53.5mセットバックさせ設置している。設備機器も建屋の北側・南側・西側に配置し、メインの東側道路に対し、養液及び騒音等の配慮を行っている。十分に

#### LR1 エネルギー

生産部分のエネルギー仕様を考慮して、照明等に係る設備容量を最小限に抑えることで、過度なエネルギー使用を控える計画とした。

#### LR2 資源・マテリアル

窓・扉の少ない生産ゾーンの外壁に対して、メンテナンスしやすく、耐久性のある防汚タイプの吹付けを考えている。

#### LR3 敷地外環境

大型車購入が想定される車入口は東側道路を避け、交差点より十分離し、かつ両面研究所の入口と干渉しあわないように設置している。同時にスタッフ駐車場ゾーンへの入口も南側としている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される